

# Economic Indicators

発表日：2020年12月28日(月)

## 景気動向指数(2020年11月)の予測

～20年5月以来の低下か。基調判断は上方修正ならず～

第一生命経済研究所 調査研究本部  
経済調査部長・首席エコノミスト 新家 義貴  
(TEL:03-5221-4528)

### 20年5月以来の前月差低下か

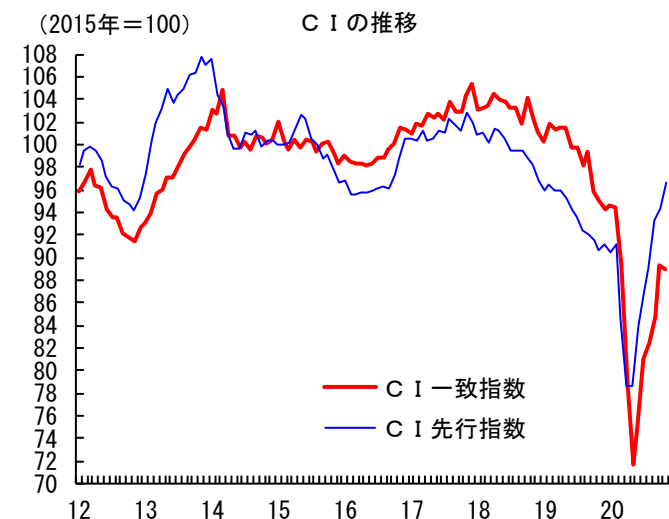
内閣府から1月8日に公表される2020年11月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差▲0.4ポイントと、20年5月以来の低下になると予想する。C I一致指数は6月以降速いペースで改善してきたが、11月は回復がいったん足踏みすることになる。内訳では、輸出数量指数や有効求人倍率が押し上げに寄与するものの、小売業販売額や耐久消費財出荷指数などの下押しが大きく、C I全体としては小幅低下となるだろう。これまで非常に速いペースで改善してきた自動車関連の生産が、挽回生産の一服もあって11月は低下に転じたことの影響が大きいほか、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて個人消費が下押しされたことも影響している。

12月についても、生産予測指数で12月も低下が見込まれていることに加え、感染拡大による消費抑制が一段と進む可能性があることから考えて、C I一致指数は2ヵ月連続で低下となる可能性があるだろう。輸出の回復傾向が続いていることに加え、1月の生産予測指数で高い伸びが見込まれているなどの好材料もあり、景気回復の流れ自体が途切れたわけではないものの、今後の回復ペースはこれまでよりも鈍化する可能性が高いだろう。

### 基調判断は上方修正ならず

内閣府によるC I一致指数の基調判断は4ヶ月連続で「下げ止まり」が予想される。今月は「上方への局面変化」への上方修正の可能性もあったが、それは実現せず、基調判断は現状維持となるとみられる。「上方への局面変化」へ上方修正されるためには「7か月後方移動平均(前月差)の符号がプラスに変化し、プラス幅(1か月、2か月または3か月の累積)が1標準偏差分以上」かつ「当月の前月差の符号がプラス」という二つの条件を満たす必要がある。11月は前者の条件は満たすものの、前月差低下となることで後者の条件を満たさないため、上方修正は見送られることになるだろう。

また、12月分については、C I一致指数が前月差で0.1ポイントでもプラスになれば基調判断上方修正が実現するのだが、前述のとおり、12月がプラスになるかどうかは微妙な情勢だ。基調判断上方修正は12月分でも実現しない可能性が十分ある。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2020年11月は第一生命経済研究所による予測値

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。